

まちにやさしい南九州大学

おいしい朝ごはん&お掃除プロジェクト

ごみを拾いまちをきれいにしながら、学生と地域の親睦を図ろうとおいしい朝ごはん&お掃除プロジェクトが5月9日、南九州大学周辺で行われました。南九州大学地域応援団「かたらん花」(松尾伊津子代表)が呼びかけ、学生ら32人が参加。参加者らはごみ拾いの後、地元の卵を使った卵かけご飯を食べながら親睦を深めました。大学祭実行委員である小林裕史さん(南九大4年)は「地域のひととの交流が目的で参加しました。11月の大学祭では地域との交流を大切にしたい」と話していました。



親子で走る! 踊る! 歌う!

親と子のスポーツ教室

5月12日、親と子のスポーツ教室前期の部の開講式が早水公園体育文化センターで行われました。スポーツを通じて親子の触れ合いや親同士の情報収集の場として開催されるもので、36組73人が参加。音楽のリズムに合わせて体操をしたり、かけっこをしたりして汗を流していました。昨年も参加したという益田恵子さん(志比田町)は「たくさんの友達ができ、子育ての悩みなどを聞いたりできるので助かります」と笑顔で答えています。また、後期の開講は暮らしたの情報(19ページ)に掲載しています。



たそがれ
黄昏どきの天文ショーを満喫

金星と月の観望会

星のきれいなまち高崎町のちびな天文台で5月16日、金星と月の観望会が行われました。西の空にひとときわ輝く宵の明星と月が20年ぶりに大接近。この日を待ちわびた天文ファンや家族連れらは、時間とともに移り変わる月面の様子や二つの星が徐々に近づいていく天文ショーを天体望遠鏡でのぞいたり、指導員の説明を聞いたりして興味深く観望していました。また、地球に反射した太陽光が月の輪郭がうっすらと見える幻想的光景に見入っていました。



読書の楽しさ伝えます

学校図書館サポーター辞令交付式

学校図書館をさらに充実させ児童に読書の楽しさを伝える学校図書館サポーターの辞令交付式が5月25日、市役所で行われました。辞令を受けたのは読み聞かせ能力や図書を紹介する展示物の作成技術などによって選考された7人。7人は6月から市内の小学校を1人当たり5〜6校受け持ち、読書活動のサポートや読み聞かせなどの活動を行います。祝吉小ほか4校を受け持つ加藤泉さんは「子どもたちに日本語の美しさや秘められた意味を読書を通じて伝えたい」と抱負を話していました。





地中に眠る都城の歴史

さくら講演会

自分たちの通う学校周辺で出土した土器や石器に触れて歴史を学ぼうと講演会が5月31日、西中学校で行われました。市文化財課が今後5カ年計画で行う巡回企画展や体験学習会として取り組む初の出前授業。今回は、土器や石器などをじかに触ることができるとあって生徒らは、競いあうように触れていました。初めて火打ち石を手にした柿木竜太くん（2年）は「キャンプでも火を起こした事はなかったけど、これなら簡単に火が起こせそうな気がする」と目を輝かせていました。



地域に根付くボランティアの心

柳河原川のクリーン作戦

花線町を流れる柳河原川の清掃活動が6月6日、子どもから大人まで参加して行われました。花線自治公民館（影石清蔵館長、240世帯）が毎年行っているクリーン作戦も今年で18年目。参加した地元住民122人は、川に捨てられたごみを拾い上げたり、河川横の「みどりの岸辺」にサルビアなどの花の苗約500本を植えたりして環境美化に汗を流しました。引越して初めて参加した永井優子さんは「子どもと楽しく花を植えた。これからは家族で参加したい」と話していました。



故郷「都城」への思い

都城市特派大使委嘱式

本市の副市長として3年3カ月間勤めた、池田宣永たかひさ総括副市長が6月30日に退任し、同日、都城市特派大使の委嘱式が行われました。特派大使は、本市の魅力を全国に幅広く伝えてくれる人に委嘱するもので、池田さんで28人目。長峯市長の「都城での経験を生かし頑張っ欲しい」との激励の言葉に、池田さんは、「都城市での経験を生かし国で頑張ります。財務省に帰るのではなく、都城市という親元から出向する思いです」と、故郷、都城への熱い思いを語っていました。

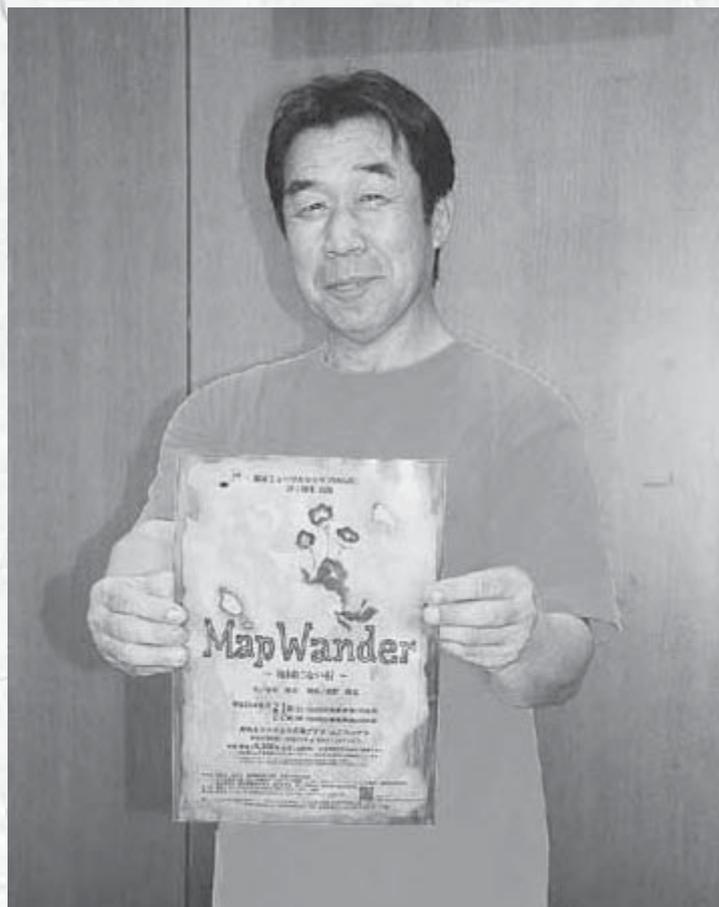


終息を願い献灯祭

おかげ祭り

都城の夏の風物詩おかげ祭りの献灯祭が7月9日、八坂神社から駅前周辺で行われました。例年神社の六月灯に合わせて本祭り、宵祭りを実施していますが、口蹄疫の影響で今年は規模を縮小して開催。口蹄疫を吹き飛ばせばかりに元気な太鼓や笛の音色が鳴り響く中、大灯籠山車や三角灯籠山車などが列をつくり、市内約3・4キロを練り歩きました。中村七郎さん（中町）は「今年は、みこしや踊り連などの参加がなく寂しい祭りになった。口蹄疫が早く終息して欲しい」と願っていました。





昨

年7月に中学生以上を対象に第1期研究生を募集し、本市を拠点にミュージカルの活動をしている「都城ミュージカルクラブ」。その代表が浅野隆志さん（高城町大井手、59歳）です。

大阪府出身の浅野さんは、豊かな自然に囲まれた中で子育てをしたという理由から15年前に都城に移住。俳優業の経験を生かし都城に誇れる劇団をつくりたいという思いで都城ミュージカルを立ち

上げ、現在14人の研究生とともにけいこに励んでいます。

大阪で俳優業を営んでいたころ、仲間が俳優を目指すために東京に行き、生活費を稼ぐためアルバイトにおわれ、けいこの時間が不足し夢半ばにして挫折していく様を見た浅野さん。

「大都会に行かなくても感性豊かな若いころから演劇に触れたり、演劇の基礎を学んだりできる環境さえあれば、プロになれるの



8月に初舞台を踏む
「都城ミュージカルクラブ」を設立

あさのたかし
浅野隆志さん

だ」という強い信念が劇団設立へと突き動かしました。

設立当初は、メンバーのほとんどが中高生とあって、授業や部活で全員がけいこに集まるのが難しく、また、演劇を初めて体験する人も多く、せりふを覚える前に発声練習や歌の練習などの基礎訓練を4カ月かけて行いました。

「仲間の絆やライブ意識を生む学生時代のクラブ活動のように自分たちが中心となって作ってい

くという願いを込めて劇団ではなく、クラブなんです」と名付けに込めた思いを話す浅野さん。

現在は、8月21日(土)・22日(日)にウエルネス交流プラザで初舞台となる「Map Wander」地域図にない村」を成功させるために、練習を行い日々汗を流す浅野さん。新たな仲間(第2期研究生)も募集中です。将来は「全国で公演できる劇団にしたい」と夢は膨らみます。

都城讃歌

【やっばいみやこんじょーはよかね】

斉藤ルミ子さん



斉藤ルミ子
(さいとう るみこ)

◎プロフィール

昭和37年生まれ ものまねタレント
オフィスころ所屬。テレビ、ラジオ、CMなどで幅広く活躍中

小学6年生の時、父の仕事の転勤で北海道から西小学校に転入。最初は言葉もよく分からなくて…。今となつては、都城弁で話すと、ほっとして友達、家族と話しています。

「ものまね王座決定戦」で芸能界デビュー後全国各地を巡らせていただいている毎日ですが、地方でもたまに「都城から来たんだよ！」と笑顔で応援してくださいるお客さまもいて、その時はショートタイム中にもかかわらず、つい都城弁でショーを進行してしまい、ほかの方々はキョトンとしている時もあります。

「ものまね王座」で優勝してどんなに忙しい時でも都城に帰

る時間だけは、しっかりと確保して、あの霧島を見ればすぐに元気を取り戻してまた頑張ろうと心に新たな夢を描いてきました。

もちろん今でも時々帰って元気を取り戻しています。不思議といふアイデアが浮かんだりするんですよ。

現在、実家は鷹尾から鹿児島県の国分へと引っ越ししましたが、私にとって都城はやはり「ふるさと」。今では都城に住む兄家族や五十市中学からの友達に会うのが私の楽しみです。東京でのお仕事も頑張りますが、これからも時々都城へ帰って思いつきり都城弁で語りたいたと思っています。

学校へ行こう

高崎麓小学校

高崎町前田758 ☎62-2124



◎学校のシンボル 「アオバズク」

毎年、プールが始まる時期に、学校に来るめずらしい鳥です

ようこそ高崎麓小学校へ

高崎麓小学校 6年生

高崎麓小学校は、創立138年の歴史がある自然豊かな学校です。全校児童は、42人で、みんなとても仲がいいです。

学校の特色は3つあります。まず、アオバズクという珍しい鳥が学校に来ます。プールが始まるころ、毎年、イチヨウの木に巣を作って、ときには、ひなを育てている時もあります。わたしたちは、アオバズクが大好きで、毎年、会うのを楽しみにしています。

次に、地区で受け継がれている俵踊りです。わたしたち高学

年は、運動会で、俵踊りを発表しています。この踊りは、5・6年生が4年生に教えるのでこれからも続いて欲しいです。

最後に、全校で取り組んでいる「あいさつ返事日本一」と「体力づくり」です。毎朝、あいさつ隊が玄関に並んで、みんなの元気のよいあいさつで、1日がスタートします。体力づくりは、毎週木曜日の朝、運動場を走り、タイムを計っています。目標タイムを目指して、みんな頑張っています。

わたしたちの学校は、自然がいっぱいで、最高の学校です。これからも、ふもとつ子で、笑顔あふれる学校にしていきたいです。